

五七日

いつなぬか

浄土真宗のおつとめといえば、「**帰命無量寿如来**」ではじまる『**正信偈**』が、もつとも身近な存在でしょう。『**正信偈**』は、宗祖・親鸞聖人の主著『**教行信証**』の行巻の末尾にある七言百二十句の偈文（漢文のうた）です。また、法事での読経のあとにお坊さんが参詣者のほうに向きをかえて拝読されるのは『**御文章**』（御文）と呼ばれるもので、浄土真宗の中興の祖・蓮如上人が、お念仏をすすめるために全国の門徒にあてて書かれたお手紙をまとめたものです。

經典は『**仏説無量寿経**』（大経）、『**仏**

真宗の聖教

説観無量寿経』（観経）、『**仏説阿弥陀経**』

（小経）の「浄土三部経」です。これらは、お経ですからお釈迦さまのおことばをまとめたものです。阿弥陀如来の救いのたのもしさや、仏国土たるお浄土のすばらしさをたたえたお経です。

このほか、『**讃仏偈**』（大経下巻の四句二十偈の讃歌）や『**重誓偈**』（大経上巻の讃歌）といわれるみじかいお経もあります。

浄土真宗では、こうした「浄土三部経」をはじめとした經典と宗祖や蓮如上人の撰述、インド、中国、日本の七高僧の撰述を総称して「**お聖教**」または「**聖典**」と呼んでいます。

